



▲町制施行40周年に合わせてオープンする(仮称)文化・スポーツの森公園

のかもしれない。

わが国はいま、重大な選択の岐路に立たされているのであります。私達は謙虚に今日までの歩みを反省し、希望と勇気をもって、今後の国家、社会のあり方を選択しなければならぬ、また自らの生き方を問い直さなければなりません。

いま叫ばれている「豊かさの実感できる社会」の実現は、先ず国民一人ひとりが、物に傾斜し過ぎた価値観を立て直し、ここらと物に対する均衡のとれた人生の価値観を回復するところから始めなければならぬと思います。そしてその上に、明確にめざす国家、社会の理念を打ち立てることであります。変革には、痛みや犠牲が伴いますが、決してそれを避けては通れません。今年ままさに、国家も国民もそれを覚悟し、決断する時だと思えます。不惑を迎えた光町も、六年後に扉を開く二十一世紀の新時代に向かって、惑うことなく、確固たる一步を踏み出したいと願っております。

ます。日本の繁栄は、産業の発展によって、成し得たとされています。これは、国民の勤勉さに負う所が多いと思えます。しかし、わが国の誇る代表的産業も、円高各種々の要因により、急速に国際競争力を失い、生き残りをかけ海外に活路を求める一方、国内の空洞化



▲9月24日に行われた広報通信員会議での委嘱状交付

今年は、光町が誕生して四十周年にあたり、記念式典をはじめ、諸行事も「町制施行四十周年」と銘打って、町民の皆様のご協力のもと盛会に実施して行く様計画致しております。ふる里光町高揚のため、ぜひご参加いただき、自らの手で町おこしをしていただきたいと思えます。

斉藤町政は、「二十一世紀に向けた町づくり」に邁進しております。特に、光町の住民で良かったと言えるよう、雇用、文化、スポーツ、老人福祉、各施設の充実が計られ、今年中に、テニスコート、温水プール、図書館に加え、先輩の方々の手作りによる「老人いこいの家」も竣工の予定であります。これ等、諸施設を十二分にご活用いただいで、光町の良さを実感していただけたらと思えます。

年頭にあたり「広報ひかり」が、ご期待に応えられるようお誓い致しますと共に、本年が、皆様に至福の年となりますことをお祈り申し上げて致します。

が懸念されております。また、冷夏により、稲作が大凶作となり収穫時、毛利元就の「三本の矢」を鮮明に思いおこし、農業のもう一本の柱である畑作物、特に、秋冬ネギをはじめとする野菜の価格が、稲作の不作分を補って余りあればと念じる次第であります。